

一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造

— 高等学校公民科における学びがつながることを目指した問いの工夫と振り返りの工夫を通して —

指導主事 築 義彦

研究協力員 熊本県立第一高等学校 教諭 川崎 裕子

1 研究の視点について

(1) 視点1『見方・考え方』に着目した問いの工夫について

生徒たちが「見方・考え方」を働かせ、多様な他者と協働しながら、問題を解決していくようにすることを目指し、『見方・考え方』に着目した問いの工夫を設定した。

公民科固有の「見方・考え方」は、『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』（以下、『答申』）の別添資料によれば、「人間と社会の在り方についての見方・考え方」として示されている。「人間と社会の在り方についての見方・考え方」とは、「社会的事象等を倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉えよりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けて」見ること・考えることである。

この「人間と社会の在り方についての見方・考え方」が働くようにするには、現実の社会にある課題を多様な視点から捉えさせ、よりよい社会の構築に向け選択・判断を迫るような「問い」が有効ではないかと考えた。また、一単位時間及び単元全体の構成を工夫することで、選択・判断を迫る「問い」を解決するために、試行錯誤したり、多様な他者と協働したりする学習活動の充実が図られると考えた。

(2) 視点2「学びを実感する振り返りの工夫」について

学習活動を通して、生徒たちが自身の成長を実感し、次の活動につなげることができるようにすることを目指し、「学びを実感する振り返りの工夫」を設定した。

本研究では、視点1で述べたように、生徒たちが「見方・考え方」を働かせ、多様な他者と協働しながら、問題を解決していく課題解決的な学習を設定

した。そこで、授業における課題解決へのプロセスを振り返り、「課題についての知識を得る前と後では、自分の考えがどのように変容したのか」、さらに「グループでの対話によって、自分の考えがどのように深められたのか」を生徒自身が見取れるように、学習活動及びワークシートを工夫した。また生徒に、学びについての「自己評価」を行わせ、それに対して教師がコメントを返して価値付けを行うことで、生徒が学びの実感を得られるようにした。

2 研究の実際

検 証 高等学校1年 現代社会
単元名 選挙制度の現状と課題

(1) 本単元の授業設計

① 実態から

生徒は、中学校までの社会科の学習内容について概ね理解しているものの、「社会科、地歴・公民科は暗記がすべて」という考えを持っている生徒も多く、現代社会の学習が、未来を創る公民として、現代社会の基本的な問題について主体的に考え、公正に判断する力の基礎を養うことを目指しているということ認識していない生徒も多い。

また、話し合い活動には積極的に参加できているが、明確な根拠がないまま大きな声の意見に従属する生徒が多くみられるという現状もある。

さらに、事前アンケートから、学校生活や学習を通して、自分の周りの友だちが成長していることを認めている生徒が多い一方で、自分自身が成長したと感じたり、周りの人（先生や家族、友だちなど）に自身の成長を認められているという実感をもっていたりする生徒は少ないということが分かった。

これらのことから、現実の社会における具体的な課題を自分のこととして捉え、資料等を活用して根拠をもって自分の考えを述べることは、指導事項を身に付ける上で欠かせない活動であると考えた。

さらに、話し合い活動の中で、すべての生徒が自

分の考えを発表し、その内容が課題の解決に反映されるという経験をすることや、教師による声掛けや、ワークシートへのコメント等で学びを価値付けられることにより、周りから認められているという実感を持たせることも必要であると考えられる。

② 単元観

本単元は、現代の経済社会の変容などに触れながら、選挙制度の原則や衆参両議院の選挙の仕組みについて理解を深めさせるとともに、選挙制度の課題について考察させるものである。特に選挙制度の課題については、一票の価値の格差について、最高裁判所判決を踏まえた制度改正について学び、格差が起こる原因や制度改正によって新たに生じる課題について考えさせる必要がある。

また、政治参加が国民の重要な権利であると同時に義務とも言えるものであることを踏まえ、主権者としての在り方生き方を考察させ、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせなければならない。

これらのことから、本単元において選挙制度の現状と課題について学習し、真の民主主義を実現させるための制度案を考えることは、主権者として未来の創り手となる「豊かな学び」の創造につながるものであると捉える。

③ 指導観及び研究の視点

ア 指導観

- 主権者としての意識を高められるようにする。
- 選挙についての課題を、当事者意識をもって捉えることができるような問いを設定する。
- 自分の考えを根拠付ける資料等を自ら選択し、広い視点から自己の主張を構成させた上で、他者に伝えることができるようにする。
- 多様な価値観を持つ他者との対話を充実させることで、自己の考えを深めることができるようにする。

イ 研究の視点

(7) 研究の視点 1

- ①『「見方・考え方」に着目した問い」を設定することで、これまでの学習や経験を活かし、試行錯誤しながら自分の考えを持てるようにする。
- ②複数の意見が掲載されている資料を提示し、他者と対話する時間を充実させることで、多様な価値観を持った他者との合意形成を図りながら自分の考えを深め、持続可能な社会を実現していこうとする態度を育む。

(イ) 研究の視点 2

- ③ワークシートに、資料から読み取ったことや他者の意見を記入する欄を確保し、自らの意見が形成されていく思考過程を可視化できるようにする。
- ④振り返りの場面において、自由記述や自己評価の項目を工夫し、学習内容と社会生活のつながりを実感できるようにすることで、自己の成長を感じ取らせ、現代社会の諸課題について主体的に関わろうとする力を育み、主権者としての意識を高めさせる。

④ 単元の目標及び評価規準

単元の目標	望ましい選挙制度を追究する活動を通して、民主政治の本質について考察し、社会に参画する力を高める。
関心・意欲・態度	①政治及び選挙についての興味・関心が高まっている。
思考・判断・表現	①選挙及び政党政治における課題の原因を見出し、課題解決のための具体的方策を考察し、説明している。
資料活用 の技能	①自らの意見を根拠付けるのに必要な資料を選択し、資料から、選挙における課題を読み取っている。
知識・理解	①日本の選挙制度やその課題について正しく理解している。 ②政党や圧力団体が持つ役割について理解している。

⑤ 単元計画

単元を貫く問い：より多くの国民の声を届けられる選挙制度を提案しよう。

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1	1 選挙制度の四つの原則を知る。	【知識・理解】①：単元テスト 【思考・判断・表現】①：ワークシート、観察 【資料活用 の技能】①：ワークシート 【研究の視点1】 ②資料や他者との対話の中で、自分一人では考えることができなかったことに気付かせる。 【研究の視点2】 ③根拠を明確にして意見をまとめることで、対話の前後での自分の考え方の変化に気付かせる。
	2	2 日本の選挙制度について理解する。 3 選挙制度の現状と課題について理解を深め、その原因と解決策を考える。	
	3	4 政党や圧力団体の持つ役割について理解する。 5 政治的無関心の割合が高まっている現状と解決策を考える。	
二			【知識・理解】②：単元テスト 【関心・意欲・態度】①：ワークシート、観察 【研究の視点1】 ①当事者意識を持ち、既習知識を活用しながら課題の解決策を考えさせる。 【研究の視点2】 ④ワークシートを活用しながら、選挙は国民が直接政治に参加する大切な機会、投票は主権者としての責任を果たす行為につながるという意識を高める。

(2) 指導の実際（2/3時間）

学習活動及び指導上の留意点	
過程	1 本時の目標を確認する。 ○学習目標と本時の流れを説明し、生徒が見通しを持って授業に参加できるようにする。 学習目標（めあて） 国政に、より多くの国民の声を適切に届けるための方法を考える。 2 一票の価値の格差について知る。 ○教材提示の工夫を行う。 (1) 一票の価値の格差が生じる原因を考える。 (2) 格差は正のために国が講じた策について知る。 (3) 国が講じた施策から、どのような問題が生じる恐れがあるかを考える。
	3 本時の問いについて考え、話し合う。 参議院の選挙区選挙の今後のあるべき姿を考えよう。 (1) 選挙制度の改革案として、どのような方法があるかを知る。 (2) エキスパート活動として、それぞれの改革案のメリット、デメリットを、資料を踏まえて考える。 (3) ジグソー活動として、それぞれの改革案のメリット、デメリットを発表し合い、ワークシートに整理する。また、それぞれの改革案を「一票の価値の平等」と「地方への配慮」という点に着目して比較・検討し、班で最もよいと思う改革案を選択する。 【研究の視点1】②資料や他者との対話を通して多様な意見を知り、自分の考えを深める。 (エキスパート活動での対話の一部) 生徒1：えっ、どういうこと？ 生徒2：例えば、熊本県と鹿児島県が合区したとするよ。そして、二人とも鹿児島県から選ばれたとしたら… 生徒1：あー（そういうことか）。 (ジグソー活動での対話の一部) 生徒3：それで、（全国一区の）デメリットは、立候補者が全国を回って演説をするのが不可能というのと、肉体的に苛酷な運動を強いること、あと、膨大な政治資金が必要っていうのと、意見が偏るということです。 生徒4：おー、そうですね。 生徒5：なるほど。なんかすぐ分かりやすい。 生徒4：じゃあ、Aはいかんね。 生徒6：おれは、B。Bかな。 生徒5：Bはデメリットが2つもあるよ。 生徒4：Bは、合区することによって、その（2つの）県での国にしてほしいことが一緒になってしまっ…分かるかな？ 評価：思考・判断・表現（ワークシート・観察） B基準 望ましい選挙制度の在り方について、根拠を持って自分の考えを表現している。 4 授業を通して分かったこと、もっと知りたかったことをまとめる。 【研究の視点2】③学習を通して、自分の考えがどのように変わったかを振り返る。
導入	
展開	
整理	

長の実感」について見取る質問紙調査の結果である。また、表2は、検証授業の終末に行った「この時間の学習で分かったこと、もっと調べてみたいと思ったこと」について、生徒たちが自由記述による振り返りを行ったものから抜粋したものである。

本実践の検証結果とその考察について、研究の視点である「学習活動の充実」の観点と、「成長の実感」の観点から述べる。

表1 学び全体の変容（n=38）4件法

有意確率**<0.01 *<0.05

	質問	事前	事後	有意確率
学習活動の充実	現代社会の学習のとき、1つの見方だけでなく、別の見方からも考えながら問題を解決しようとしている。	2.79	3.05	0.065
	現代社会の学習のとき、様々な解決方法を試しながら、問題を解決しようとしている。	2.63	3.00	0.004**
	現代社会の学習のとき、一人一人ができることを生かしながら、友達や先生と一緒に問題を解決しようとしている。	2.88	3.42	0.000**
成長の実感	現代社会の授業のとき、「分かるようになった」や「できるようになった」と感じる。	2.98	3.29	0.020
	現代社会の学習で学んだことをこれからの学習や生活に生かそうとしている。	2.83	3.37	0.000**
	現代社会の授業を通して、「社会に参画する力」が高まっていると思う。	3.00	3.42	0.000**

表2 検証授業後の自由記述による振り返り

	自由記述内容
生徒A	一票の格差を中学校の時に勉強したとき、なんで一票の格差を小さくするための対策をしないんだろうと思ってんだけど、一票の格差を小さくするには、それに伴って大きなリスクもあることを今回の授業で知ることができました。
生徒B	どんな対策を練っても、必ずメリットがあれば、デメリットもあるということが分かりました。これからは、どんな対策案が出ていて、1番メリットが大きいく、デメリットが少ないのかを調べたいと思います。
生徒C	他の国は一票の格差にどう対応しているのかを調べてみたいと思った。
生徒D	一票の格差を小さくすることが大切か、それとも地方のことを考えるのを大切にするべきか悩んだ。
生徒E	改革案Bの合区が推進されている理由や、これから合区が進むとどうなっていくのかを調べてみたい。自分の選挙に対しての見方が、少し前向きになった。
生徒F	私も2年後には選挙権を持つので、自分の声もしっかりと政治に反映してもらうためにも、他人事と思わずに今日学んだことをもっと深く調べてみたい。

ア 研究の視点1について

「見方・考え方」に着目した問いの工夫については、表1の上記3項目のうち、2項目で有意に向上が見られたことから、「学習活動の充実」に効果的であったと考えられる。また表2に、「これからは、ど

(3) 検証結果と考察

① 「豊かな学び」について

表1は、豊かな学びの「学習活動の充実」と「成

んな対策案が出ていて、1番メリットが大きく、デメリットが少ないのかを調べたいと思います」や「自分の声もしっかりと政治に反映してもらうためにも、他人事と思わずに今日学んだことをもっと深く調べてみたい」等、よりよい社会の構築や社会に対する自己の在り方に関する記述が多く見られた。このことから、問いの工夫によって、生徒たちの「人間と社会の在り方についての見方・考え方」が働いたことがうかがえる。

イ 研究の視点2について

「成長の実感」についても、表1の3項目のうち2項目で有意に向上が見られた。特に、「現代社会の学習で学んだことをこれからの学習や生活に生かそうとしている」については、大きな向上が見られたことから、今回の学習を通して分かったことや考えたことを、これからの学習や生活に生かそうとすることについて期待が持てる。

また、表2に「一票の格差を中学校の時に勉強したとき、なんで一票の格差を小さくするための対策をしないんだろうと思っていたけど、～中略～今回の授業で知ることができました」や「自分の選挙に対しての見方が、少し前向きになった」とあることから、自身の成長を強く意識している生徒がいることが分かる。

② 「未来の創り手」について

表3は、「未来の創り手」について見取る質問紙調査の結果である。本実践の検証結果とその考察について述べる。

表3 「未来の創り手」に関する変容

(n=38) 4件法 有意確率**<0.01 *<0.05

質問	事前	事後	有意確率
自分は、学校生活や学習を通して、自分自身が分かるようになった、できるようになったと思う。	2.90	3.11	0.052
自分は、学校生活や学習を通して、周りの人が分かるようになっていく、できるようになっていると思う。	3.15	3.42	0.048*
自分は、学校生活や学習を通して、周りの人から分かるようになっていく、できるようになっていると認められていると思う。	2.58	2.66	0.278
自分は学校生活や学習を通して学んだことをもとに、自分自身が主体的になったと思う。	2.75	2.87	0.304
自分は、周りの人が学校生活や学習を通して学んだことをもとに、主体的になったと思う。	3.08	3.03	0.285

表3の結果から、「未来の創り手」に関しては、「自分は、学校生活や学習を通して、周りの人が分かるようになっていく、できるようになっていると思う。」については、向上が見られたものの、全体として大きな変容が見られなかったことが分かる。

「未来の創り手」となるための資質・能力については、明確に設定していないため、今後の精査が必要であると考ええる。また、資質・能力の育成については、単元というまとまりだけでなく、学年を通じて見取ることも必要であるため、意識調査の調査期間についても検討が必要である。

3 研究のまとめ

今回、高等学校公民科では、研究の視点によって「豊かな学び」につながったかを検証した。

(1) 成果

これまで述べてきた表1の変容から、研究の視点による取組により、「豊かな学び」へつながったと考える。特に、視点1の『「見方・考え方」に着目した問いの工夫』による学習活動の充実に成果があったことが分かった。

また、『答申』によれば、次期学習指導要領における新科目「公共」は、「現代社会の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための概念や理論を習得し、自立した主体として国家・社会の形成に参画する力を育成する」教科であるとされている。本研究において示した実践は、新科目「公共」の先行事例としても参考になると思われる。

視点2の「成長を実感する振り返りの工夫」についても、表1のような変容がみられた。このような成果には、「問い」が現実の社会に直接つながるものであったことも関係していると考えられる。

(2) 課題

「未来の創り手」に関する資質・能力については、年間の指導計画の中で、今回示した研究の視点をどのように位置付けていくか、また、学校全体の教育課程の中で、どのように生徒の資質・能力を育てていくかということを含めて、今後、さらに検討していく必要がある。

《引用・参考文献》

- ・文部科学省(2010) 『高等学校学習指導要領解説 公民編』
- ・中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」